

所外研修⑥ ユネスコ無形文化遺産「組踊」を鑑賞

郷土の伝統芸能を鑑賞し、郷土文化についての理解を深め、教員としての資質向上に図るため、所外研修の第6回目として、11月27日(木)に国立劇場おきなわにて「組踊」(国指定重要無形文化財、ユネスコ無形文化財)を鑑賞しました。

教育研究員の感想

今回、初めて国立劇場おきなわに足を運び組踊りを鑑賞することができました。十数年前の初任者研修では「執心鐘入」を鑑賞したときには、この場所ではありませんでした。あらすじの書かれた資料と照らし合わせながら、鑑賞したのを覚えています。今回は、字幕もあり、生徒のための鑑賞教室ということで、分かりやすく親しみやすい内容になっていました。一つ一つの台詞や所作などの振舞いも素敵で、沖縄の伝統文化の素晴らしさを味わうことができました。見学にきていた小学生も「おもしろかったね」と友達同士で目を輝かせながら話しをしていました。これは、難しい組踊の中にユーモアを取り入れ、その約束事を学べるように様々なアイデアや工夫が施されていたからだと思えます。演出家や関係者の舞台を創っていく構成力と組踊普及への熱意が感じられました。伝統文化にふれ、教師自身の感性を磨くことの大切さを感じると共に、私自身がとっても素晴らしい感動体験になりました。

(稲嶺あゆみ)



国立劇場おきなわへ初めて訪れ、組踊を鑑賞しました。今回は生徒のための組踊鑑賞教室ということもあり、内容構成も子ども向けに分かりやすく考えられ、今まで難しいと思って敬遠気味だった「組踊」に対して見る目が変わりました。第一部では子どもが知っている話を組踊版にアレンジし、観客を演技に参加させたり、地謡(じうてい)と呼ばれる音楽担当の人たちが組踊の歴史や約束事を交えながら演奏したり、出演者も場面によってはコミカルに演じるなど観客が組踊に興味をもって見てもらえるよう工夫された内容になっていました。組踊は大人だけが演じるものだと思っていたので、第二部の『女物狂』で子どもも演じているのを見て驚きました。第一部で約束事やまじりを紹介していたので、それを思い出しながら組踊独特の台詞回しや所作に注目して鑑賞することができました。張出舞台や字幕表示など劇場にも工夫がされていて、観客が満足して鑑賞できるようになっていたと思います。また団体送迎バスの無料サービスもあるということなので、学校にも紹介したいと思いました。

(安座名有里)

第1部の組踊版「シンデレラ」を通して、組踊の歴史や約束事を紹介していました。また、普及講演なので、みんながわかるストーリーの童話を組踊にしている点や見学にきた小学生を舞台上げて参加させる等工夫が施されていました。第2部でも、間がすごく、次は何が起こるのかと興味をひかれました。パンフレットには、漫画で組踊が紹介され、踊り手や演奏者の方がその事だけでは生計が立てられないとの課題がありました。沖縄の伝統文化を引き継ぐ若者にとっても魅力ある職業にまでなしてほしいと思います。

(勢理客貴之)

組踊りをみるのは2回目ですが、国立劇場に行くのは初めてでした。演目「シンデレラ」では、対象が児童ということもあり、笑いの要素を入れたり、児童に役を与え劇に参加させたり、分かりやすく組踊りの説明をするなどの工夫がされていました。玉城朝薫の5番の一つ「女物狂」では、言葉は分からなかったのですが、側に字幕があるので助かりました。羽根田先生が仰っていたが、音楽を演奏するのに指揮もなく、合わせられるのはすごいことなのだろうと思いました。役者も演奏者も若い人が多いのですが、伝統の継承の為にがんばって欲しいと思いました。学校でみる時には送迎バスが無料で、千円で鑑賞することが出来るそうなので、伝統を伝える為にも、今度は児童と一緒に来たいと思いました。

(比嘉俊雄)

玉城朝薫の「朝薫の5番」と呼ばれる組踊のうち、私にとって2作目となる組踊を観ることができました。西洋の童話を沖縄の組踊として創りかえる大胆な演目に、どんなふう演じるのだろうと興味津々で観ることができました。観に来た小学生が、役者の一人として紅型の衣装を身にまとい、参加させてもらったのは非常に貴重な体験をしたなあと思います。出演者の中に子ども役の子が3人いましたが、八・八・八・六調の組踊ならではの独特のリズムでしっかり台詞が言っていたのには感心しました。役者がそのリズムで読み上げる台詞を確かめたくて、何度も何度も指で数えてみましたが、所々その通りでなく、疑問が残ってしまいました。それと、台詞には男性に5種類、女性は3種類あるというのですが、残念なことには私には区別することができませんでした。どこが違うのか、このような普及公演で、その違いを知る機会があればいいと思いました。「シンデレラ」の中で途中途中に加えられた説明が、後の「女物狂」を観る際に役に立ちました。組踊の所作に意味があることを事前に理解できたからです。事前学習って、こういうふうに生きるんだと、実感できました。生徒にも学習の過程で、この実感を体感させたいと思いました。

(古謝栄子)